

教科名	国語	講座名	国語教養基礎	履修区分	合同
科目名	国語教養基礎			単位数	1
教科書			副教材など		
教科の目標	漢字力・語彙力などの国語力の基盤となる能力を身につけ、伝え合う力を養い、言語感覚を磨き、社会生活を豊かにする。				
備考					
科目の目標	漢字力・語彙力を総合的に身につけ、適切かつ効果的に表現する能力を高める。				

### ●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法	評価配分
a	関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	課題提出、発表などの取組み状況確認	30%
b	話す能力 聞く能力	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	発表の状況、内容、聞く態度	10%
c	書く能力	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	課題の取り組みの状況確認	10%
d	読む能力	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。		
e	知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	テストによる知識の習得状況確認	50%

### ●留意点

- ・辞書を使って漢字の成り立ちや語句の意味、来歴を調べる言語活動を行う。
- ・毎時間プリント提出を課す。
- ・長期休業中に漢字、語句等についての調べ学習や作文を行い、課題提出を課すことがある。

### ●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点					評価方法
			a	b	c	d	e	
4	漢字の読み書き	基本的な漢字の読み書きを学ぶ。	○	○	○			課題提出、意欲・態度
5	表記	適切な漢字の使用、正しい送り仮名、紛らわしい漢字について学ぶ	○	○	○			課題提出、意欲・態度
6	熟語	熟語の構成と意味の把握	○	○	○		○	定期テスト、意欲・態度
7	文法	言葉の使用の決まりについての理解	○	○	○			課題提出、意欲・態度
8	四字熟語	四字熟語の典故と意味を把握	○	○	○			課題提出、意欲・態度
9	敬語	謙譲語、尊敬語、丁寧語の使用について	○	○	○		○	定期テスト、意欲・態度
10	対義語・類義語	対義語、類義語についての理解	○	○	○			課題提出、意欲・態度
11	部首	正しい筆順、部首の理解。 辞書を使用しての調べ学習	○	○	○		○	定期テスト、意欲・態度
12	同音異字・同訓異字	同音異字、同訓異字の理解と使用	○	○	○			課題提出、意欲・態度
1	故事成語、熟字訓	故事成語、ことわざ、 金言の理解と使用。 熟字訓の理解と使用	○	○	○		○	課題提出、意欲・態度、 定期テスト

教科名	地理・歴史	講座名	日高地域研究	履修区分	合同
科目名	日高地域研究			単位数	1
教科書			副教材など		
なし			ワークシート等		
教科の目標	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生きる民主的、平和的な国家・社会の一員として必要な自覚と資質を養う。				
備考					
科目の目標	日高地域の伝統と文化を学び、自ら調べまとめ発表したりする活動等を通して日高地域に対する理解を深め、郷土愛を高め、地域に根ざす姿勢を育成する。				

●評価方法

評価の観点	観点の趣旨	評価方法	評価配分
a 関心・意欲・態度	新ひだか町の歴史的・地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追求しようとする。	授業への取り組み	30%
b 思考・判断・表現	新ひだか町の歴史的・地理的事象から課題を見だし、地域の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。	ワークシート・レポート等	30%
c 資料活用の技能	新ひだか町の歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。	ワークシート・レポート等	20%
d 知識・理解	新ひだか町の歴史と地理的、文化的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。	ワークシート・レポート等	20%

●留意点

学習活動の評価は、講義受講後に作成するレポートやワークシートなどで総合的に判断します。

●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法	
			a	b	c	d		
4	オリエンテーション 北海道の特色	北海道の特色を調べ、理解する。	○	○	○	○	授業への取り組み ワークシート・レポート等の提出	
5	日高の特色	日高地域の特色を調べ、理解する。	○	○	○	○		
6	漁業 (外部講師)	新ひだか町の昆布を理解する。 昆布調理実習	○	○	○	○		
7	歴史 (外部講師)	新ひだか町の歴史を理解する。	○	○	○	○		
8	防災 (外部講師)	新ひだか町の防災を理解する。 防災巡検	○	○	○	○		
9	まちづくり (外部講師)	新ひだか町のまちづくりを理解する。	○	○	○	○		
10	馬産地 (外部講師)	馬を通して日高を知る。	○	○	○	○		
11	観光 (外部講師)	新ひだか町の観光を理解する。	○	○	○	○		
12	レポート作成	1年間で学んだ内容をもとにレポートを作成する。	○	○	○	○		
1								授業への取り組み レポート提出

教科名	数学	講座名	数学に親しむ	履修区分	合同
科目名	数学に親しむ			単位数	1
教科書			副教材など		
なし			なし		
教科の目標	数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高め、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる。				
備考					
科目の目標	数学に関する様々なテーマについて、遊びと学びを区別しないで楽しみ、実際に体験することで自分の考えを持ち、さらに発展させることを目指す。				

### ●評価方法

評価の観点	観点の趣旨	評価方法	評価配分
a 関心・意欲・態度	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	授業・レポート・発表・作文	25%
b 数学的な見方や考えかた	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	授業・レポート	25%
c 数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	授業・レポート・発表	25%
d 知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	授業・レポート	25%

### ●留意点

--

### ●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4,5	一刀切り	紙を工夫して折り、一刀切りすることで、様々な図形を作ります。	○	○		○	授業・レポート・発表・作文
6,7	ゲームde数学	身近なゲームの必勝法を考えたり、新たなルールを創造します。	○	○	○		授業・レポート・発表・作文
8,9	ピタゴラスイッチ	ピタゴラスイッチ作成を通して、どのように問題を解決するかを考えます。	○	○	○		授業・レポート・発表・作文
10,11	掃除とカレーと...	実社会や自然界に潜む「最小化問題」について考えます。	○	○		○	授業・レポート・発表・作文
12,1	2次元と3次元	身近な平面図形や立体に注目して特徴を考えます。	○	○		○	授業・レポート・発表・作文

教科名	保健体育	講座名	トレーニング	履修区分	合同
科目名	トレーニング			単位数	1
教科書			副教材など		
現代保健体育改訂版			アクティブスポーツ		
教科の目標	専門的に体力を高める意義・方法を学び、効率よく運動ができる資質や能力を育てる。トレーニングの実践を通じ心身ともに自らを鍛え、自他の安全に配慮して行動する態度を身につける。				
備考	【履修条件】 2年次で「トレーニング」を履修した生徒は不可 日常的に運動を実践しており、男子は1500m走を6分以内で、女子は1000m走を5分以内で走りきれぬ生徒に限る。				
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種のトレーニングの基礎・基本技術を身につける。</li> <li>自ら積極的にトレーニングに取り組む資質を身につける。</li> <li>仲間と協力して活動を行い、安全に配慮して行動する態度を身につける。</li> </ul>				

### ●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法	評価配分
a	関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に主体的に取り組もうとする。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について関心を持ち、意欲的に取り組もうとする。	出席状況 学習状況 服装	10%
b	思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動の取り組み方や健康の保持及び体力を高めるための運動の計画を工夫している。また、個人及び社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し、それらを表している。	学習状況 課題レポート 技能テスト	20%
c	運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	技能テスト	50%
d	知識・理解	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するための理論について理解している。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。	学習状況 課題レポート 技能テスト	20%

### ●留意点

- ・個人および集団の安全を守るために授業規律を守ること。
- ・指定された服装で授業を受けること。
- ・授業中に体調が悪くなった場合、速やかに担当教諭に報告し指示を仰ぐこと。
- ・入念に準備運動・整理運動を行い、学習環境・施設・道具の安全確認をするなど、常に安全に配慮して授業に取り組むこと。
- ・授業中に激しいトレーニングを行っても積極的に取り組むことのできる生徒に限る。

### ●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4 5 6	持久系 トレーニング	持久系トレーニングの基礎を学び、積極的にトレーニングに取り組む態度を身につける。	○		○		出席状況 学習状況 学習シート 課題レポート 技能テスト
7 8 9	スピード系 トレーニング	瞬発力系の運動や無酸素系のトレーニングの基礎を学び、安全にトレーニングに取り組む態度を身につける。		○	○	○	
10 11 12	筋力系 トレーニング	フリーウエイトや自体重を使った筋力系のトレーニングの基礎を学び、安全にトレーニングに取り組む態度を身につける。	○	○		○	
1	総合的 トレーニング	各種目の特性を生かしたトレーニング計画を立てたり、目的に応じたトレーニングを計画し、実践することができるようにする。		○	○	○	

教科名	芸術	講座名	器楽基礎	履修区分	合同
科目名	音楽			単位数	1
教科書			副教材など		
なし			なし		
教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。				
備考					
科目の目標	楽器演奏の基礎的な能力の習得、演奏活動に積極的に取り組もうという態度の育成				

### ●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法	評価配分
a	関心・意欲・態度	音楽活動の真びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	授業態度、課題提出状況、鑑賞レポート、忘れ物状況、ペーパーテスト	20%
b	音楽的表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの動きを感受しながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	実技（歌唱、器楽演奏等）	30%
c	音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	実技（歌唱、器楽演奏・アンサンブル等）	30%
d	鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの動きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	鑑賞レポート	20%

### ●留意点

・音楽を構成する要素を知覚・感受し、意図を持って表現できることを目標にして学習を進める。実技は1人で演奏するもの、合奏などのアンサンブル活動、合唱のような全体での活動など、いろいろな形態で実施。提出物、ペーパーテストは、理解の定着を図るため。常に音楽的であることが中核をなすということを念頭におき、表現すること。

### ●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4	オリエンテーション、ギター独奏	音楽の学習についての理解、音階および単旋律の奏法（アポヤンド奏法・G）	○	○	○		授業態度、実技テスト
5	ギター、リコーダーアンサンブル	アルトリコーダーの選指と音階、音階および単旋律の奏法（アポヤンド奏法・G）	○	○	○		授業態度、実技テスト
6	ギター独奏、リコーダーアンサンブル	愛の挨拶（R）、週間（G）	○	○	○	○	授業態度、実技テスト
7	ギター独奏、リコーダーアンサンブル	愛の挨拶（R）、週間（G）	○	○	○	○	授業態度、実技テスト
8	ギター独奏、リコーダーアンサンブル	メスエット（G）、日本の詩情（R）	○	○	○	○	授業態度、実技テスト
9	ギター独奏、リコーダーアンサンブル	メスエット（G）、日本の詩情（R）	○	○	○	○	授業態度、実技テスト
10	ギター独奏、リコーダーアンサンブル	アレグレット（G）、日本の詩情（R）	○	○	○	○	授業態度、実技テスト
11	ギター3重奏	Stand By Me	○	○	○	○	授業態度、実技テスト
12	ギター3重奏	Stand By Me	○	○	○	○	授業態度、実技テスト
1	ギター3重奏	Stand By Me、学習のまとめ	○	○	○	○	授業態度、実技テスト

教科名	芸術	講座名	絵画入門	履修区分	合同
科目名	絵画入門			単位数	1
教科書			副教材など		
			アクリルカラーセット・色鉛筆		
教科の目標	芸術の幅広い活動を通じて、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う				
備考					
科目の目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。				

### ●評価方法

評価の観点	観点の趣旨	評価方法	評価配分
a 美術への 関心・意欲・態度	美術の創造活動の喜びを味わい、美術や美術文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動の取り組みを行うとする。	授業態度 課題提出状況 鑑賞レポート	20%
b 発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。	アイディアスケッチ	30%
c 創造的な技能	創造的な表現をするために必要な技能を身につけ、表現方法を工夫して表している。	提出作品（練習用課題を含む）	30%
d 鑑賞の能力	美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。	小テスト（年2回） 鑑賞レポート	20%

### ●留意点

- ・作品の制作に重点を置き、観察力や表現力を高めるための基礎的・基本的な技能を学びます
- ・作品制作に準じて西洋や日本美術の鑑賞活動を行い、一般教養的な知識を身につけます
- ・作品の制作後に自己評価や他者評価を行い作品のよさや美しさについて考え芸術作品における感性を磨きます
- ・常によりよい作品を目指そうとする向上心を持って制作し、提出作品の期日を守ってください

### ●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4	オリエンテーション	絵画入門について					
5	【絵画】 切り絵制作	〔第1段階〕 自分のレベルにあった型紙を選択し、丁寧に美しい切り絵を制作する					アイディアスケッチ 提出作品 鑑賞レポート (自己評価・他者評価)
6		〔第2段階〕 自分で描いたイラストを切り絵にアレンジしオリジナル作品を制作する	○	○	○	○	
7		〔第3段階〕 制作した切り絵にさまざまな画材で着色し、画材の特色や色の配色を工夫して創造的な作品に仕上げる					
8	【デザイン】 ポストカードデザイン	「癒し」をテーマに自分の世界観をイラストレーションとして表現する ※画材は自由	○	○	○	○	アイディアスケッチ 提出作品 鑑賞レポート（自己評価）
9							
10	【絵画/デザイン】 スクラッチ	写真や自分の世界観を参考にイラストレーションを描き、白と黒のコントラストのバランスを考えたデザインをスクラッチ表現する ※着色しても可	○	○	○	○	アイディアスケッチ 提出作品 鑑賞レポート（他者評価）
11							
12							
1	まとめ	絵画入門を通じて					

教科名	芸術	講座名	漢字仮名交じりの書	履修区分	合同
科目名	漢字仮名交じりの書			単位数	1
教科書			副教材など		
使用しない					
教科の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。				
備考					
科目の目標	さまざまな書体・古典を学ぶことを中心に学習し、運筆法や用筆法を身につける。それらをもとに漢字仮名交じりの書を通じて自己を表現する能力を身につける。				

### ●評価方法

評価の観点	観点の趣旨	評価方法	評価配分
a 書への関心・意欲・態度	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に感心を持って、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	授業態度 ワークシートの取り組み 課題提出状況	20%
b 書表現の構想と工夫	書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	作品提出（練習用課題も含む）	30%
c 創造的な書表現の技能	創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。	作品提出（練習用課題も含む）	30%
d 鑑賞の能力	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え書のよさや美しさを創造的に味わっている。	ワークシートの取り組み	20%

### ●留意点

- ・作品の制作に重点を置き、観察力や表現力を高めるための基礎的基本的技能を学びます
- ・作品制作に準じて古典や古筆の鑑賞活動を行い、一般教養的な知識を身につけます
- ・作品の制作後に自己評価や他者評価を行い作品のよさや美しさについて考え芸術作品における感性を磨きます
- ・常によりよい作品を目指そうとする向上心を持って制作し、提出作品の期日を守ってください

### ●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4	オリエンテーション 手紙を書く①	書道の学習のねらい 日常生活の手紙	○	○		○	作品の取り組み 提出物（作品）
5	手紙を書く②	さまざまな手紙（文豪・芸術家）	○	○		○	作品の取り組み・ 提出物（作品）
6	字形と線質①	字源を学ぶ 筆の弾力を生かした軽快な線質	○	○	○		作品の取り組み 提出物（作品）
7	字形と線質②	力強い線質	○	○	○		作品の取り組み・ 提出物（作品）
8	作品構成①	行間・余白を考える	○	○	○	○	作品の取り組み・ 提出物（作品）
9	作品構成②	題材に合う効果的な構成を学ぶ	○	○	○	○	作品の取り組み 提出物（作品）
10	表装の方法を知る	裏打ちから飾り付けまでを学ぶ	○	○		○	作品の取り組み 提出物（作品）
11	漢字仮名交じりの書の制作①	題材・表現を考える	○	○		○	作品の取り組み・ 提出物（作品）
12	漢字仮名交じりの書の制作②	文字の配置・構成を考える	○	○	○	○	作品の取り組み・ 提出物（作品）
1	1年間のまとめ	完成作品の鑑賞	○	○	○	○	作品の取り組み 提出物（作品）

教科名	英語	講座名	リスニング	履修区分	合同
科目名	リスニング			単位数	1
教科書			副教材など		
HyperListening 3rd Edition Introductory (桐原書店)			ハンドアウト		
教科の目標	外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を養う。				
備考					
科目の目標	(1) リスニング・ディクテーション練習を通して英語を聞きとる力を伸ばす。 (2) 音読練習を通して英語を読む力と聞き取る力を伸ばす。				

### ●評価方法

評価の観点	観点の趣旨	評価方法	評価配分
a 関心・意欲・態度	ペアワーク・暗唱・暗写に積極的に取り組んでいるか。	ペアワーク、発表、提出物、授業参加の様子	20%
b 表現の能力	定型表現をペアワーク等で活用できているか。	ペアワーク、発表、定期考査	10%
c 理解の能力	聞き取った英文の内容を理解できているか。	リスニング、ディクテーション、定期考査	10%
d 知識・理解	単熟語や定型表現を覚えて理解できているか。	確認テスト、定期考査	60%

### ●留意点

<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスニング練習問題の結果をそのまま評価の対象とします。</li> <li>・ファイルの用意をしてください。</li> <li>・他の授業や家庭でのリスニング練習の機会を自分で見出すこと。</li> <li>・授業で扱った例文や単熟語を覚えること。小テストを実施します。</li> </ul>
---

### ●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4	Lesson 1, 2	年間を通して次の活動に取り組む  ・リスニングストラテジー(方策)に関する学習 ・リスニング問題への取り組み ・ディクテーション(聞き取り)活動	○	○	○	○	授業の様子 (a) 提出物 (a) ペアワーク, 発表 (ab) リスニング (ac) ディクテーション (ac) 確認テスト (d)
5	Lesson 3, 4		○	○	○	○	
6	Lesson 5, 6		○	○	○	○	
7	Lesson 7, 8		○	○	○	○	
8	Lesson 9		○	○	○	○	前期期末考査(bcd)
9	Lesson 10, 1		○	○	○	○	
10	Lesson 12, 13		○	○	○	○	
11	Lesson 14, 15		○	○	○	○	
12	Lesson 16, 17	○	○	○	○		
1	Lesson 18	○	○	○	○	3 年次後期期末考査(bcd)	
2	Lesson 19	○	○	○	○	1, 2 年次後期期末考査(bcd)	
3	Lesson 20	○	○	○	○		

## MEMO



教科名	外国語	講座名	STEP UP ENGLISH	履修区分	合同
科目名	STEP UP ENGLISH			単位数	1
教科書			副教材など		
			英会話やリスニングなどのワークシート		
教科の目標	1 英語運用能力の基礎を作り上げ、「読む・書く・聞く・話す」といった四技能の向上を図る。 2 語法や読解、リスニング、スピーキングといった活動を通じ、総合的な英語運用能力の向上を図る。				
備考					
科目の目標	1 コミュニケーションを図ろうとすることができる。 2 情報や考えなどを理解することができる。 3 情報や考えなどを伝えることができる。 4 文化的な多様性や違いを考えながら学習することができる。				

### ●評価方法

評価の観点	観点の趣旨	評価方法	評価配分
a 関心・意欲・態度	間違いを恐れずに積極的に授業に参加している。理解できなくても推測して理解しようとしている。	ワークシート・ペアワーク取組状況	10%
b 表現の能力	適切な表現を選択し、相手に伝えようとしている。まとまりのある文章で書こうとしている。	発表等・作文等	20%
c 理解の能力	初見の文章の内容を、文脈や図表、イラストから推測しながら理解しようとしている。	小テスト等	20%
d 知識・理解	求められる文法事項を理解しようとしている。聞き手に伝わるように表現を工夫しようとしている。	確認テスト・定期テスト等	50%

### ●留意点

- 1 不明な点は辞書などを活用し、積極的に調べましょう。
- 2 安易に投げ出さず、自ら問題を解決しましょう。

### ●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4		日常の授業では下記のA, B, Cを重点的に行う。	○	○	○		
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的なレベルに焦点を置いた構文t等のチェックと学習-A</li> <li>・基本的なレベルに焦点を置いたスピーキング活動-B</li> <li>・基本的なレベルに焦点を置いた英作文-C</li> </ul>	○	○	○		
6			○	○	○	○	確認テスト
7			○	○	○		
8			○	○	○		
9			○	○	○	○	前期期末考査
10			○	○	○		
11			○	○	○	○	確認テスト
12			○	○	○		
1			○	○	○	○	後期期末考査

教科名	家庭	講座名	福祉コミュニケーション	履修区分	合同
科目名	福祉コミュニケーション			単位数	1
教科書			副教材など		
教科の目標	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域を創造する能力と実践的な態度を育てる。				
備考					
科目の目標	福祉についての基礎知識・技術を学ぶとともに、面接や人とのかかわりの中で必要となるコミュニケーション能力を習得する。				

### ●評価方法

評価の観点	観点の趣旨	評価方法	評価配分
a 関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	演習の取り組み ワークシートの取り組み レポート	20%
b 思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。	レポート 定期考査	30%
c 技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	演習の取り組み	30%
d 知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。	レポート 定期考査	20%

### ●留意点

- ・演習を中心に授業を行いますので、積極的に参加してください。
- ・他者理解を本講座の目標としていることから、生徒各個人が「受容」「共感」「傾聴」の姿勢を念頭におき受講してもらいたい。
- ・面接に備えて自分の考えや自己アピールポイントを整理して伝えられるようにする。

### ●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4	コミュニケーションの基礎	演習「流れ星」 「流れ星」の振り返りとディスカッション	○	○	○	○	演習の取り組み ワークシート・レポート
5	コミュニケーションの基礎	演習「一方通行・双方通行」 小講義「効果的なコミュニケーション」	○	○	○	○	演習の取り組み ワークシート・レポート
6	コミュニケーションの基礎	演習「インタビュー」 小講義「抽象的・具体的な言葉」	○	○	○	○	演習の取り組み ワークシート・レポート
7	ガイドヘルプ	演習「アイマスク体験」 小講義「視覚障害者の介助」	○	○	○	○	演習の取り組み ワークシート・レポート
8	まとめ	小講義「言語障害の対応」 小講義「介護の心構え」	○	○	○	○	ワークシート・レポート
9	コミュニケーションの基礎	前期期末考査 演習「第一印象」「心の4つの窓」 小講義「ジョハリの窓」	○	○	○	○	前期期末考査 演習の取り組み ワークシート・レポート
10	コミュニケーションの基礎	演習「見る・聞く・話す」 演習「あなたがおっしゃったことは」 小講義「話す時と聞く時のポイント」	○	○	○	○	演習の取り組み ワークシート・レポート
11	コミュニケーションの応用	演習「匠の里」 小講義「リーダーシップ」	○	○	○	○	演習の取り組み ワークシート・レポート
12	コミュニケーションの応用	演習「道職のグループワーク」 小講義「T機能・M機能」	○	○	○	○	演習の取り組み ワークシート・レポート
1	コミュニケーションの応用	演習「新説桃太郎」 小講義「コンセンサスを得るための注意点」	○	○	○	○	演習の取り組み ワークシート・レポート

教科名	情報	講座名	情報活用	履修区分	合同
科目名	情報活用			単位数	1
教科書			副教材など		
教科の目標	情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。				
備考					
科目の目標	2年次・3年次の「情報科」で学習した内容の理解を深めるとともに、アプリケーションソフトの効果的な利用方法や利用技術の能力を身につける。				

●評価方法

評価の観点		観点の趣旨	評価方法	評価配分
a	関心・意欲・態度	情報や情報社会に関心を持ち、身の回りの問題を解決するために進んで情報及び情報技術を活用し、情報社会に主体的に対応しようとする。	・授業態度による評価 ・授業振り返りファイルによる評価	50%
b	思考・判断	目的や対象別にソフトを利用しているか。全体構想をうまく描くことができるか。		
c	技能・表現	問題点をどのように改善しているか。表現方法を工夫しているか。	・パフォーマンスによる評価 ・定期考査は実施しない	50%
d	知識・理解	アプリケーションソフトを効果的に利用する知識と技術を身につけているか。		

●留意点

<1 ソフトウェアの研究>  
アプリケーションソフトの機能及び特徴についての研究を通して、これまで学習した専門的な知識と技術の進化、総合化を図るとともに、新しい知識や技術を習得する。

<2 職業資格の取得>  
生徒自らが希望する職業資格の取得等のため、専門的な知識及び技術等の習得のための学習を行う。これらの学習を通して、これらを取得するための学習方法を体得し、自らの進路意識を高める。

●学習計画

月	単元	学習内容	評価の観点				評価方法
			a	b	c	d	
4	準備	使用するソフトの到達目標を設定する。					・授業態度による評価 ・授業振り返りファイルによる評価 ・パフォーマンスによる評価 ・定期考査は実施しない
5	基礎編	入力例や完成例を参照しながら、手順に沿って問題を完成させる。					
6							
7	応用編	文章から求められている指示を読み取り、必要な作業を自分で考え、問題を完成させる。  アプリケーションソフトの違いや、特徴を理解し、使い分けができるようにする。	○	○	○	○	
8							
9							
10	攻略編	より難易度の高い問題に挑戦し、問題を完成させる。  問題の解決方法は1つではなくより効果的な方策がないか考えさせる。					
11							
12							
1							